

- ・ 学習内容と生活における実践の結び付きに気付かせる場面設定の工夫
- ・ 多様な考えを引き出す学習活動の工夫

技術・家庭科学学習指導案

学 級 2年6組（男子20名女子19名計39名）

場 所 家庭科室（1年校舎2階）

授業者 教 諭 精 松 真 由

1 題材

C 衣生活・住生活と自立 (2)住居の機能と住まい方 「災害への備え」と「住生活における課題と実践」

2 題材について

日本は、地形、地質、気象などの様々な自然条件から、災害が発生しやすい国土となっている。また、地域によって、台風、豪雪、土砂災害、火山噴火など、起こりやすい災害の種類も多種多様であり、その国土や居住可能な土地の狭さから、私たちは災害と隣り合わせの生活をしているとも言える。特に地震については、日本全国に2000以上の活断層があると言われており、阪神・淡路大震災や東日本大震災の記憶も新しい。震災直後は、多くの人が耐震、防災について考えていたことは事実である。しかし、震災復興に関する関心は高いものの、防災対策については、震災直後の切迫した考えが根付いているかは確信をもつことができない。

この題材では、まず、日常生活をより安全で快適にするための室内環境の整え方や住まい方について知る学習活動を行う。その後、起こり得る災害に対する備えについて学習する。快適に住まうことの良さを十分理解させた上で、災害への備えについて学習することで、その重要性に気付かせ、主体的に学ばせることができる。

生徒は、校区が甲突川周辺であることから、自分たちが生活している地域が8.6水害で甚大な被害を受けた地域であることは知っている。また、桜島の火山活動が活発化していることもニュースなどで知っている。東日本大震災においては、ニュース等を見るだけでなく、被災地の中学校と生徒会の交流を行っていることもあり、大地震の怖さも理解はしている。しかし、情報を見聞きはしていても、自分が被災者となった時のことについて対策を考えたり、具体的に家族で話し合ったりしている生徒は多くない。

そこで指導にあたっては、まず、災害は自分が住んでいる地域でも起こり得ることに気付かせ、自分のこととして課題を見付けさせたい。次に、自分の命を守るために、防災するための効果的な投資や準備等の防災対策の必要性に気付かせたい。更に、自分の命を自分で守るだけでなく、家族が自宅や学校、職場で被災した時の家族の約束事の必要性や地域における中学生の役割についても考えさせたいと考えている。そこで、ジグソー学習を取り入れることにより、資料から防災対策について学び合い、多様な考え方に触れることで、自分や自分の家族、地域に合った対策を見付けられるようにした。また、学習後に、生徒が実際に家族と約束事を話し合ったり、防災対策を行ったりすることができ、家族や地域の一員としてとるべき行動を自覚できるような工夫をしたい。

3 題材の目標

- (1) 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について関心をもって学習活動に取り組み、住生活をよりよくしようとするができる。
- (2) 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方、住生活の工夫について課題を見付け、その解決を目指し、工夫し創造している。
- (3) 住生活の工夫に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。
- (4) 住居の機能について理解し、安全で快適な室内環境と住まい方、住生活の工夫に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

4 題材の指導計画

「C 衣生活・住生活と自立」※以下は住生活のみ(全6時間)※本時は太字

指導項目	学習活動	時間	評価			
			関	工	技	知
(2) 住居の機能と住まい方	・ 住まいのはたらきを知る。	1	○			○
ア 住居の機能と住まい方	・ 家族が安全で快適に住まうための住まい方の工夫を考える。	2	○	○	○	○
イ 安全な室内環境の整え方、快適な住まいの工夫	・ 住まいや地域の災害対策を考える。	3	○			○
(3) 住生活の工夫	① 家族や地域の災害対策で知っていることをまとめ、必要な対策を知る。	3 (本時 2/3)	○	○		
イ 住生活についての課題と実践	② 家族や地域の災害対策について話し合う。		○	○		
A(2)アと関連付けて行う	③ 家族や地域の災害対策をまとめる。		○	○		

5 題材における評価規準

C 衣生活・住生活と自立

※以下は住生活のみ ※本時は太字

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
・ 自分や家族の住生活と生活行為とのかかわりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。			・ 住居の基本的な機能について理解している。
・ 安全で快適な室内環境に関心をもち、整え方や住まいの課題に取り組もうとしている。	・ 室内環境について課題を見付け、調査・観察・実験などを通して、安全で快適な整え方や住まいについて考え、工夫している。	・ 調査・実験・実習などを通して、安全で快適な室内環境の整備について実践できる。	・ 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。
・ 自分や家族の住生活をよりよくすることに関心をもち、課題を主体的にとらえ、分析・調査などの計画と実践に取り組もうとしている。	・ 自分や家族の住生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫して分析している。 ・ 調査・分析などの実践の成果と課題についてまとめたり発表したりしている。		・ 住生活の工夫に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

6 到達目標問題

問題 鈴木家(祖母・父・母・二郎さん(中学2年)・妹(5歳))の防災マニュアルや二郎さんの部屋の家具の配置などを見て、防災のために補足することや改善案、更にその理由を答えなさい。

<p>☆鈴木二郎くんの個人生活の空間☆</p>	<p>☆鈴木家の防災マニュアル☆ 記入日 平成24年4月1日</p> <table border="1"> <tr> <td>非常持ち出し袋</td> <td>・ 母の寝室のクローゼットの中(平成24年4月に準備) 内容：非常食の乾パン、水5リットル、懐中電灯、包帯、ラジオ、Tシャツ5枚、タオル5枚</td> </tr> <tr> <td>被災時集合場所</td> <td>・ 伊敷中学校体育館</td> </tr> <tr> <td>被災時連絡先</td> <td>・ 119番 ・父携帯：090-〇△※◎-▽♪♭〇</td> </tr> <tr> <td>防災対策</td> <td>・ 地震の時には、本などで頭を保護する。 ・ 食器や本の棚のガラス戸は必ず閉める。 ・ 第1に身の安全。 ・ 祖母は母が介助して避難する。</td> </tr> </table>	非常持ち出し袋	・ 母の寝室のクローゼットの中(平成24年4月に準備) 内容：非常食の乾パン、水5リットル、懐中電灯、包帯、ラジオ、Tシャツ5枚、タオル5枚	被災時集合場所	・ 伊敷中学校体育館	被災時連絡先	・ 119番 ・父携帯：090-〇△※◎-▽♪♭〇	防災対策	・ 地震の時には、本などで頭を保護する。 ・ 食器や本の棚のガラス戸は必ず閉める。 ・ 第1に身の安全。 ・ 祖母は母が介助して避難する。
非常持ち出し袋	・ 母の寝室のクローゼットの中(平成24年4月に準備) 内容：非常食の乾パン、水5リットル、懐中電灯、包帯、ラジオ、Tシャツ5枚、タオル5枚								
被災時集合場所	・ 伊敷中学校体育館								
被災時連絡先	・ 119番 ・父携帯：090-〇△※◎-▽♪♭〇								
防災対策	・ 地震の時には、本などで頭を保護する。 ・ 食器や本の棚のガラス戸は必ず閉める。 ・ 第1に身の安全。 ・ 祖母は母が介助して避難する。								

解答例	解答の根拠(ポイント)
<ul style="list-style-type: none"> 家具を固定したり、重い物を棚の上の方に置かないようにしたりして、家具転倒や落下物がないように配置する。 持ち出し袋や家族の防災の決まりは、定期的な見直しが必要。 地域の人と日頃からコミュニケーションをとっておく。 水害時は、伊敷中学校ではなく水浸ししない場所を集合場所として話し合う等、災害に応じた対応をする。 外出時にはハザードマップや避難経路の確認などを行う。 祖母の介助、非常持ち出し袋の持ち出し等、息子も協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内の安全確保や家族の状況に応じた対応。 変化するもの(食品・家族・交通整備の状況など)への対応。 成長に伴い、中学生が家族や地域にできることがあることに気付く。 学校と家だけでなく、日頃の防災意識を高める。

7 本時の実際

(1) 題材 「災害への備え」と「住生活についての課題と実践」

(2) 目標

ア 災害時を想定し、安全で快適な住生活を営む上での家族や地域の課題を進んで見付け、解決しようとする
ことができる。

イ 災害時における家族や地域の対策についての工夫をまとめたり、発表したりすることができる。

(3) 授業設計の工夫

ア 学習内容と生活における実践の結び付きに気付かせる場面設定の工夫

研究の視点 1

(ア) 自分の家族が行っている防災対策を記述させて、そこから課題を見付けさせることで、主体的に学習できる
ようにする。

(イ) 自分たちの住んでいる地域での災害を想定したり、班を家族と想定したりして学習させることにより、生
活を想像しながら学習できるようにする。

(ウ) 自分の家族の防災対策を見直させたり、自分の家庭で防災対策を話し合う(行う)家庭学習課題を課した
りすることで、家族で防災について話し合う機会になるようにする。

イ 多様な考えを引き出す学習活動の工夫

研究の視点 2

(ア) エキスパート活動により、防災対策についてポイントを絞って話し合わせることで、1つのことについて
深く考え、根拠を明確にすることができるようにする。

(イ) ジグソー活動を行うことで、状況ごとの防災対策を、自分の班で根拠をもって説明させ、多様な考えに気
付けるようにする。さらに、クロストーク活動で全体に向けて発表させ、他の班の考えを共有させたり、説
明不足で課題が残っている班の課題を埋めたりする。

(4) 展開

過程	時間	学習の流れ	学習活動	○指導上の留意点 ※授業設計の工夫	◎評価	教具等
導 入	個 8 分	はじめ				
		1	災害時の映像を見る	1 災害の怖さが分かる映像により、具体的な防災対策の必要性に気付く。	○ 前時までに学習した住まいの機能や安全に関する内容を振り返ることができるよう、板書にキーワードを残しておく。	キーワードの単語カード
		2	自分の災害対策を振り返る	2 前時に記入した自分の防災対策状況から、学習の必要性に気付く。	※ 自分の防災対策の状況を振り返って課題に気付かせることで、主体的に解決しようとする意欲を高める。	防災対策の記録
		3	課題設定	学習課題 災害に負けないためにはどのような対策が必要だろうか。	○ 自分の課題として捉えられるように生徒のことばから課題を設定する。 また、最後に自分の家族の防災マニュアルを見直すことを知らせ、学習の見通しをもたせる。	ワークシート
		4 補 5	できたか		○ 室内被害の画像の中に自分がいるかもしれない怖さに気付かせる。	

展 開	35 分		<p>6 想定した家族の「防災マニュアル」を修正するために、班内で担当者を決め、状況別のグループに分かれて防災対策を話し合う。</p> <p>9 話し合った内容を自分の班にもち寄り、班員に対策と根拠などを教え合う。</p> <p>10 想定した家族の「防災マニュアル」を修正する。</p> <p>13 班で話し合った内容を全体に発表し、他の班の意見も知る。</p>	<p>※◎「桜島大噴火による地震」を「室内で夜に被災」「昼の活動時に被災」「避難時」「被災後」の状況別グループで、ポイントを絞って話し合わせることで話し合いに深まりがあるようにする。</p> <p>研究の視点 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループを周り、話し合いに深まりがあるかを確認する。 ○ 必要に応じてヒントカードを渡したりアドバイスをしたりする <p>※◎ エキスパート活動で話し合った内容について根拠をもって説明させ、他のグループで話し合われた考えを知ることができるようにする。</p> <p>研究の視点 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災対策を修正することによって、防災マニュアルに必要な事項や注意点に気付けるようにする。 ○ 互いに質問させ、説明に不足している情報に気付いたり、補ったりすることができるようにする。 <p>※◎ 班員が状況別グループで話し合った内容を集約させたものを提示しながら班の考えを強調して発表させる。</p> <p>研究の視点 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表後、わかりにくいところを他の班員に質問させる。 ○ 他の班員に補足をさせたり、教師が補足説明をしたりする。 	<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災時の室内での死亡原因 ・家具モデル ・持ち出し袋 ・学校周辺の地図 など <p>ヒントカード</p> <p>書画カメラ</p>
		<p>一斉</p> <p>個</p> <p>7 分</p> <p>一斉</p>	<p>16 本時の学習を振り返り、まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>室内 ・ 家具や家具内の荷物の配置</p> <p> ・ 家具の固定やガラスの飛散防止</p> <p>活動時・ 家族の連絡手段、避難場所の確認</p> <p>避難時・ 持ち出し袋の中身、保管場所</p> <p>被災後・ 近所の独居老人の手助け</p> <p> ・ 情報収集と発信</p> <p>平常時・ 防災対策の見直し・近所のつながり など</p> </div> <p>17 自分の家族の防災対策状況を振り返り、課題を明確にする。</p> <p>18 活動を振り返り、考えの変容や今後の課題に気付く。</p> <p>19 交流している宮城の中学校の生徒からのメッセージを聞き実践への意欲をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の発表から、まとめに必要なキーワードを拾う。 <p>※◎ 前時に記録した自分の家族の防災対策を振り返り、自分の家族や地域のための行動目標を考えさせる。</p> <p>研究の視点 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時を振り返らせ、個人の課題が残っていないか確認させる。 ○ メッセージを見せることで、自分のこととして防災対策の必要性を高め、「私の家族の防災対策」を家庭学習課題として課する。 	<p>ワークシート</p> <p>防災ノート</p> <p>レポート用紙</p> <p>吉田中からのメッセージ</p>